一橋学園・M邸　その１

■北側外観。２階の窓はキッチンの連続窓。

■中庭より道路方向を見る。

■一橋学園・M邸
■敷地面積：135.71㎡（41.05坪）
■延床面積：169.12㎡（51.05坪）
■構造規模：鉄筋コンクリート特殊構造＋一部木造　地上３階
■家族構成：夫婦＋子供３人

■西側外観。３階の黒い部分が木構造。

一橋学園・M邸　その２

■子供室よりLDK方向を見る。上部にお父さんの書斎が見える。

■ルーフテラスより中庭を見おろす。どこにいても家族の気配がわかります。

■３階の書斎よりルーフテラスを通して子供のアトリエ方向を見る。

■２階の廊下より中庭を見る。正面は屋上への階段。

人通りの多い商業地域に立地するこの住宅は中庭形式の住宅で、道路側のシャッターを降ろせば閉じた箱状になるプライバシーが高く保てる住宅です。建物の短辺方向にあたる７ｍの距離を中空のコンクリートの床（ヴォイドスラブ）で架け渡すことによって、中庭に面しては構造的な壁がなくＬＤＫから子供室までが中庭を取り込んだ一体的な空間になっています。さらに３階の広いルーフテラスを挟んでお父さんの書斎と子供達のアトリエが対峙しています。３人の子供達の部屋は一つの大きな部屋を家具で仕切る仕掛けで、将来の家族構成の変化に柔軟に対応できるフレキシブルな空間になっています。

■詳しくは説明ページ➡（p31.32）をご覧下さい。

■ルーフテラス。デッキ材料は高耐久性を誇るスポットガム材というユーカリの仲間を使用。

一橋学園・M邸　その３

■玄関ホール。正面が主寝室、左側の階段で２階へ。

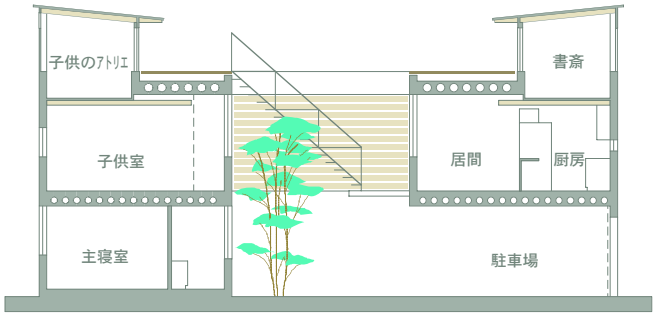
■２階居間より食事室、キッチン方向を見る。３階木造部の床をささえる木の梁が天井に見える。キッチンカウンターの上には端から端までの連続窓。

■１階洗面・脱衣室。奥に浴室。

■居間より中庭方向を見る。中庭を囲む３辺は全てガラスにできる構造システムを採用している。居間から中庭を通して子供室までの連続感がある。

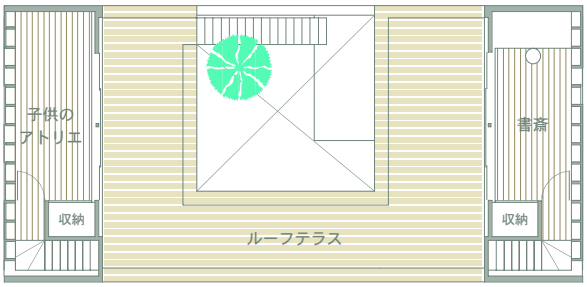
■子供室の可動家具。子供の成長に応じて自由に間仕切りの変更が可能。

一橋学園・M邸　その４

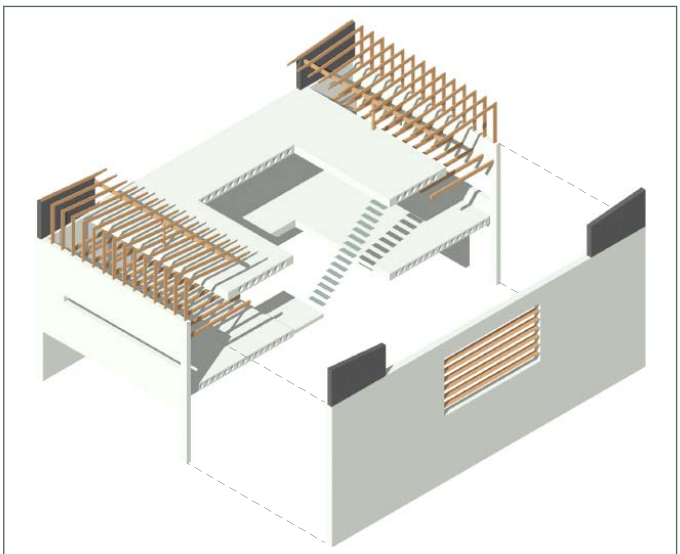


■SECTION 1/200

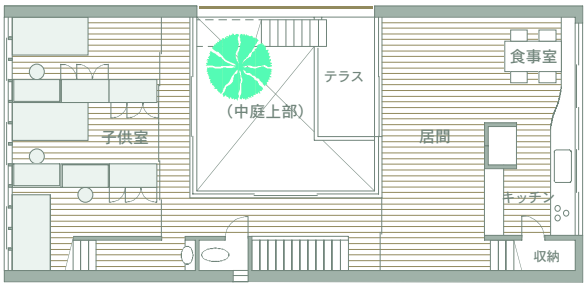
■木構造となる３階の書斎は２階までのコンクリート造部分の部屋とインテリアも一変する。



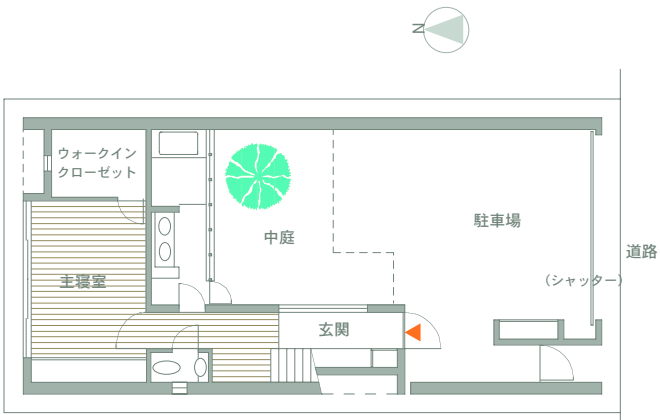
■3F PLAN 1/200



■構造ダイアグラム。１、２階がコンクリート特種構造、３階が木造。



■2F PLAN 1/200



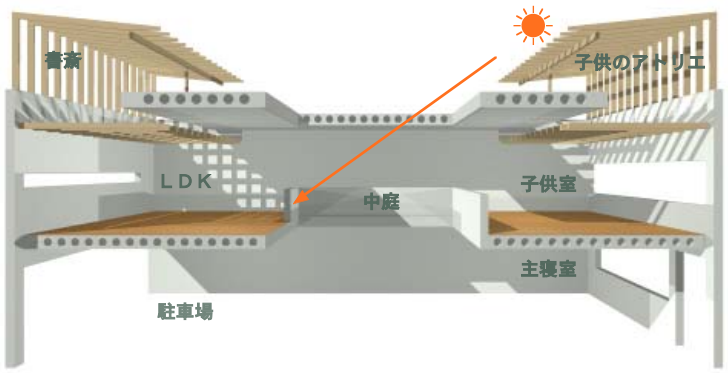
■1F PLAN 1/200

■３階書斎よりルーフテラスを見る。

作品説明　一橋学園・M邸１

敷地探しの時点から相談を受け、土地の御紹介をして実現した計画です。敷地の面積は４０坪、建蔽率は６０％、容積率は２００％、北側に道路があることによって北側の斜線制限が有利にはたらく敷地を選定しました。場所的には駅からほど近い商業地域にあり人通りも少なくありません。隣には広い駐車場スペースがあり将来どうなるか分からない環境です。そこで設計の比較的早い段階から、周囲の環境に頼るのではなく中庭に向かって開くことによって自己完結できるコートハウス形式の住宅を考えました。

■断面コンセプトパース



図の手前から奥に向かって中空のスラブが架け渡される。中庭廻りには壁が無く２階は中庭を囲んで１体感のある開放的な空間となる。３階の床をささえる木造の梁はコンクリートから釣られておりデザインの大きな要素となる。

このような操作によってこの生活空間は人目を気にしなくても良いプライバシーの高い空間でありながら非常に開放的で、また敷地いっぱいが一部屋と感じられるような伸びやかさがあります。子供室を区切る引戸は全開することができ、ＬＤＫからは子供達の様子が、子供室からはＬＤＫの様子がうかがえる家族の一体感がある空間となっています。またＬＤＫにも中庭を通して南からの明るい日差しが確保でき、風通しも抜群です。
３階には大きなルーフテラスを挟んで北側にお父さんのための書斎、南側に子供のアトリエと名付けられた隠れ家のような木造の部屋がのっかり、ここでもそれぞれの様子を感じることができます。当初コンクリートで考えていた３階を木造にしたのは構造解析的なメリットが大きかったからですが、これによってコストを押さえることができ、また木造部分をそのまま素直に表現することによってデザイン的にも多様な空間が実現し、さらに３５㎝もあるコンクリートの床から解放され心理的にも物理的にも３階が近くなって上がりやすくなりました。一石三鳥のアイデアです。

■シャッターを閉じれば箱のように閉じた外観。

具体的には建蔽率の６０％から残る４０％のほとんどを中庭で確保し、ほぼ敷地いっぱいのヴォリュームを想定します。２階を生活のメインのフロアとし、中庭を挟んで北側にＬＤＫ、南側に子供のためのスペースを配置します。そして中庭を囲む３方向は構造的な壁が必要なくなり、全てをガラスにできる構造システムを採用しています。

■ＬＤＫから中庭を通して子供室の方向を見る。

■ルーフテラスから中庭を見おろす。１階から３階まで家のどこにいても家族の気配が感じられます。

作品説明　一橋学園・M邸２

■弟２人が共有するスペース

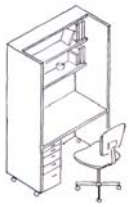
■奥が長女の個室。引戸が開放的。

設計に取りかかった時は、子供は１１歳の長女と９歳、３歳の男の子の３人。ある程度年齢差もありますから留学や結婚、独立など近い将来に家族構成に変化が起こることも充分考えられました。そこで子供達にはそれぞれに個室を与えるのではなく、１６帖ほどの大部屋を３つのデスクユニットと３つのクロゼットユニットというオリジナル可動家具を使って、右図のように変化に対応できるように考えました。子供達が相談しながら自分の領域を決めてゆくのも楽しいでしょう。

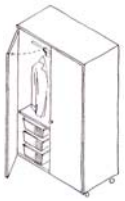
■子供室は引戸を閉めればクローズできます。右側が中庭。

■３階の子供達のアトリエ。本棚は柱の間を利用しています。

■子供室のユニットとプランのバリエーション

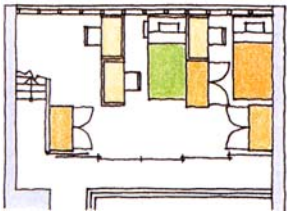


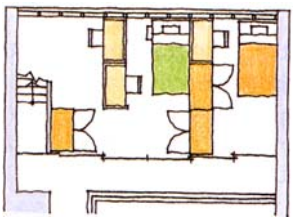
デスクユニット×３個



クロゼットユニット×３個

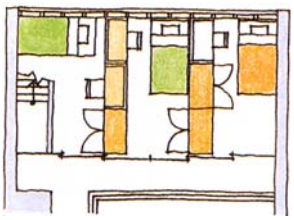
❶大部屋は個室化せず子供たちはそれぞれのコーナーだけを持ちます。小さいうちは個室に閉じこもるよりもこれぐらい開放的な方が良いのでは。

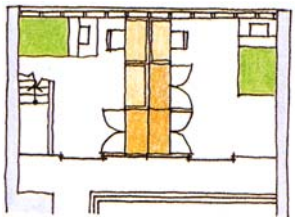


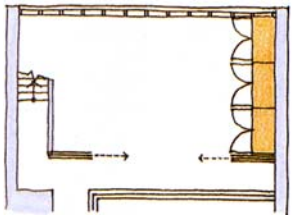


❷現在の状態です。中学生になったお姉さんだけが１番右の区画を部屋として確保して、下の弟達はひとつの領域をシェアして使っています。

❸１番下の子がもう少し大きくなったら個室を望むことになるかもしれません。現在の状態から１本クロゼットユニットを動かせば３つの個室が生まれます。





❹お姉さんが独立されるかもう少しプライバシーの高い３階のアトリエを自分の部屋にした場合には弟２人で使います。６つのユニットは背中合わせに。

❺子供室が必要なくなれば元の大きな部屋にも戻せます。もともと居間と連続感のある部屋は様々な使い方が考えられ、夫婦の将来生活の可能性も広がります。